

大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立：2000年1月13日
 ■例会日：毎週水曜日（12：30～13：30）
 ■例会場：中部コミュニティセンター TEL0475-73-3337 FAX73-4360
 ■事務所：〒299-3251 大網白里町大網450-6 ユアサビル2階 TEL0475-70-0200
 ■会長：宮間 文夫 幹事：大越 将司
 ■広報・公共イメージ向上委員会 委員長 石田 英世 副委員長 小高 徹



2019年2月6日(水)

第20巻 第27号

通巻第888

http://www.oamirotary.com
 E-mail rc@oamirotary.com



本日の例会

点 鐘 会長 宮間 文夫
 ソング 奉仕の理想
 会長挨拶 会長 宮間 文夫
 幹事報告 幹事 大越 将司
 <プログラム>

- ①奨学金授与式 ナディーシャさん
- ②誕生祝 該当者なし
- ③卓話 安川貞子様 他2名
 「朗読・紙芝居」



高山・石田・板倉(孝) 会員
 スリランカの支援 ご協力有難うございました。感謝いっぱいです！

例会日	1月23日	1月9日
会員数	30	30
出席	21	19
欠席	9	11
MU	0	1
免除	1	0
出席率	73.33	66.67

会長挨拶

宮間 文夫 会長



皆さんこんにちは！寒い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか？

私の孫、3番目の男の子、らんという名前ですが、白里幼稚園の年中組ですが、インフルエンザで学級閉鎖のため家に居るものだから、もうジジー、ジジーと質問攻めにあっています。親が乱暴者のらんと名前を付けたのかと思いました。

さて、私にも市役所から介護保険料納入通知書が届きました。国民の義務を果たせる事に喜びを感じます。日本は今、社会保障費が百何十兆円必要で、今年度は四十何兆円増額しなければならぬ状況です。私達高齢者に何が出来るのでしょうか？

さて、大相撲も横綱白鵬の全勝が続いています。大関陣はだらしなし、関脇に期待しますか？

本日は、古山豊様に卓話をしていただきます。どうぞ宜しくお願いします。

それでは、会員の皆様におかれましてはご自愛下さいませよう、お願い申し上げます。ありがとうございました。

卓話

古山 豊 先生

「メキシコ塔」建立史話



御宿の海に面した高台に、町のシンボルとして親しまれている塔がある。通称「メキシコ塔」と呼ばれているこの塔が江戸時代初期、当地に発生した大事と結びついているという史実を知る人は思いのほかに少ない。

その歴史を紐といていくと、当時の郷土史と日本史・世界史が一本の線で結ばれる壮大な展開が繰り広げられたことが分かる。

長い間、鎖国という闇に包まれ、歴史から完全に封印されていた史実が250年ぶりに光りが当てられた。明治初期、岩倉具視(ともみ)一行は欧米視察でイタリアを訪問した折りに、支倉(はせくら)常

長を中心とした「慶長遣欧使節」一行がローマ法王と謁見した事実を知らされた。その後、研究も進みこの1件の発端ともいべき大事件が、サン・フランシスコ号の上総国岩和田村(現御宿町)漂着にあったことが解ってきた。研究成果は具体的な形で稔り、昭和3年「メキシコ塔」(日西墨3国交通発祥記念之碑、高17.5尺)が建立された。

遡ること400年前、1609(慶長14)年9月30日夜10時ころ、大型ガレオン船サン・フランシスコ号(約千トン)は岩礁に乗り上げ跡形もなく大破した。すでに同船は南方で暴風雨に遭い破損もひどかったが、潮流に船体をまかせていた。決定的な打撃は田尻の浜にほど近い場所であった。船にはフィリピンの臨時総督の任務を終え、ヒスパニ(ヌエバ・エスパーニャ、後のメキシコ)へ帰国途中だったドン・ロドリゴ・デ・ビペロー一行373名と満載した200万ドゥカドの貿易品が積み込まれていた。この一件に関し、幸いにも「ドン・ロドリゴ日本見聞録(記) (以下「見聞録」)および「ビスカイノ金銀島探検報告」がある。

「これまでの奨学生の生活で得たものや、日本留学の成果などについて」

私の人生を逆転させるきっかけとなった2つの出来事があります。1つ目は日本に留学できたことです。そして、2つ目はロータリー米山記念奨学生として選ばれたことです。なぜそう思うのかというと、母国で大学入学に失敗し、未来も希望も失われた私に新たな夢を与えてくれたのは日本です。そして、その夢を実現できるように経済的だけではなく、生活や精神面など数え切れないほどのサポートをしてくれたのはロータリー米山記念奨学会でしたからです。

2017年から2019年までの2年間あっという間のように私は感じています。世話クラブのお母さんの話によると、充実した毎日を過ごしているとそう感じるようです。やはりお母さんの言う通りです。この2年間はとても充実していて成長を実感できています。

それは、私は現在も大変お世話になっている大綱ロータリークラブの方々や全てのロータリアンの方々のおかげです。これまでの奨学生生活で得たものが数え切れないほどありますが、その中で私は一番大切思っていることは日本でもう一つの家族ができたことです。

ロータリーファミリーと出会い、この恵まれた環境に私は心から感謝しております。そして、日本留学して5年が経ち、その成果として今年の春から日本の会社に勤めることとなります。

日本の留学生活は本当にいろいろな方々に支えていただきました。そのご恩返しはこれからの社会人としての働きで少しずつお返ししていければと思っています。

最後に、今年の3月で私の奨学生期間終了となります。毎月世話クラブの例会に参加や卓話などがなくなるということを見ると、とても寂しい気持ちになります。しかし、「1つのドアが閉まればもう一つのドアが必ず開きます。」その言葉を信じて、スリランカと日本の架け橋になるためにそして、いつの日かロータリアンになるためにという2つの目標達成に向けてこれからも努力を続けていきたいと思っています。

漂着したサン・フランシスコ号は、去る7月25日、フィリピンのマニラ湾を出帆した3隻の内1隻である。当時フィリピンとノビスパン間の航路は、三陸沖まで北上し太平洋の黒潮ルートに乗る航海が定着していた。

外の2隻も途中暴風雨に遭い、サンタ・アナ号は豊後(ぶんご)(現大分県)の臼杵(うすき)沖で難破・漂着、サン・アンドレス号だけが風を乗り越えて無事アカプルコへ帰着した。

「船は夜の10時にユバンダ(日本)の沿海、陸地を去る2レグア(1レグア=5572²レ)の岩礁に乗り上げ、船は破れたため56人が溺死した。同船には日本人のキリンタンが乗船していたので日本の岩和田であると理解する。日本の冬は寒気すこぶる強く、漂着当時は寒さへと向かう時期であったが、寒気は肌を刺すようであった」と漂着当時の様子をロドリゴは見聞録に記している。騒動を聞きつけた日本人が未明に5,6人海辺へやってきた。

当時、岩和田村を含め周辺村々にはどれ程の住民が生活していたか定かではないが、見聞録には、岩和田の人口300名余りにすぎないと記しているので、一行373名の漂着は天と地がひっくり返ったような大騒ぎになっ



たことは想像するまでもない。漂着した異国人を、岩和田村民は懸命に救済し、冷え瀕死(ひんし)の状態であった人々を人肌で暖め救済したという美談・逸話は今日まで伝わっている。

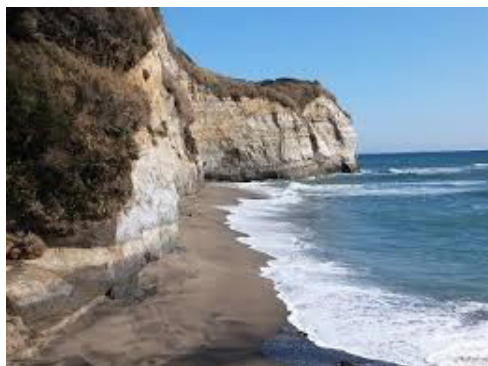
また、土地の女達から着物ははじめ、米・大根・茄子などの野菜や魚などもいただいたことを記している。一行は、大宮寺(現大宮神社)や岩和田等の民家に37日間という長期にわたって滞在した。(元県立御宿高校長・古山豊) 続きは、次号へ掲載



日西墨三国交通発祥記念之碑 (御宿町・轟台)



ロドリゴ一行が滞在した宿舎のひとつ・現大宮神社



ロドリゴ一行が漂着した田尻海岸

第42回RYLAセミナー報告

齊藤 幸男 会員

開催日：2019年2月2日(土)～3日(日)1泊2日 会場：岩井海岸 甚五郎

平成31年、2月2日～3日、第42回RYLAセミナーに参加して参りました。今回は南房総市、岩井海岸の民宿 甚五郎を舞台に、スタッフを含め総勢約100名が集合しました。1泊2日で寝食を共にし、セミナーの内容は主にウォークラリーを通じて、初日の失敗を反省し、学び、創意工夫をして2日目に目的を達成する。その経験をこらからの人生に生かそうというものです。

参加者は、最年少16歳～70歳?台まで。基本2人1組なのでペアの年齢差は40歳以上の組もありました。皆さん2日間一生懸命頑張りました。

初日の開講式には、諸岡ガバナーエレクト、2日目の閉講式には、漆原ガバナーノミニーが参加されました。私の参加は、今回で通算4回目ですが、是非我がクラブの他のメンバーにも参加して頂いて、ゴールにたどり着いた喜び、達成感を味わって欲しいと思います。